2024 年度入学試験問題
〔経済学部〕

一般選抜前期日程

小　論　文

「論述（図表理解）」

注　意

1. 指示があるまで，手を触れないこと。

2. 指示に従って，解答用紙に受験番号（算用数字）および氏名をはっきりと記入すること。

3. 解答は，解答用紙の指定された箇所に，横書きで記入すること。

4. 問題冊子は 10 ページ，解答用紙は 1 枚である。もし，問題冊子の落丁，乱丁および解答用紙の汚れなどがあれば，ただちに申し出ること。

5. 問題冊子は持ち帰ること。

問題　（150 点）

次ページ以降の資料をもとに，以下の設問に答えなさい。

設問 1

図 1，2，3 をもとに，2019 年 12 月以降のテレワークの状況をまとめ，東京都 23 区でテレワークの実施頻度が高い理由を 300 字以内で推測しなさい。

設問 2

図 4 ～ 10 をもとに，テレワークのメリットとデメリットを推測し，今後，テレワークが普及するか否かについて 550 字以内で述べなさい。

＊図中の地域区分は次のとおりです。

三大都市圏：東京圏，名古屋圏，大阪圏

東 京 圏：東京都（東京都 23 区を含む），埼玉県，千葉県，神奈川県

名古屋圏：愛知県，三重県，岐阜県

大 阪 圏：大阪府，京都府，兵庫県，奈良県

地　方　圏：三大都市圏以外の北海道と 35 県

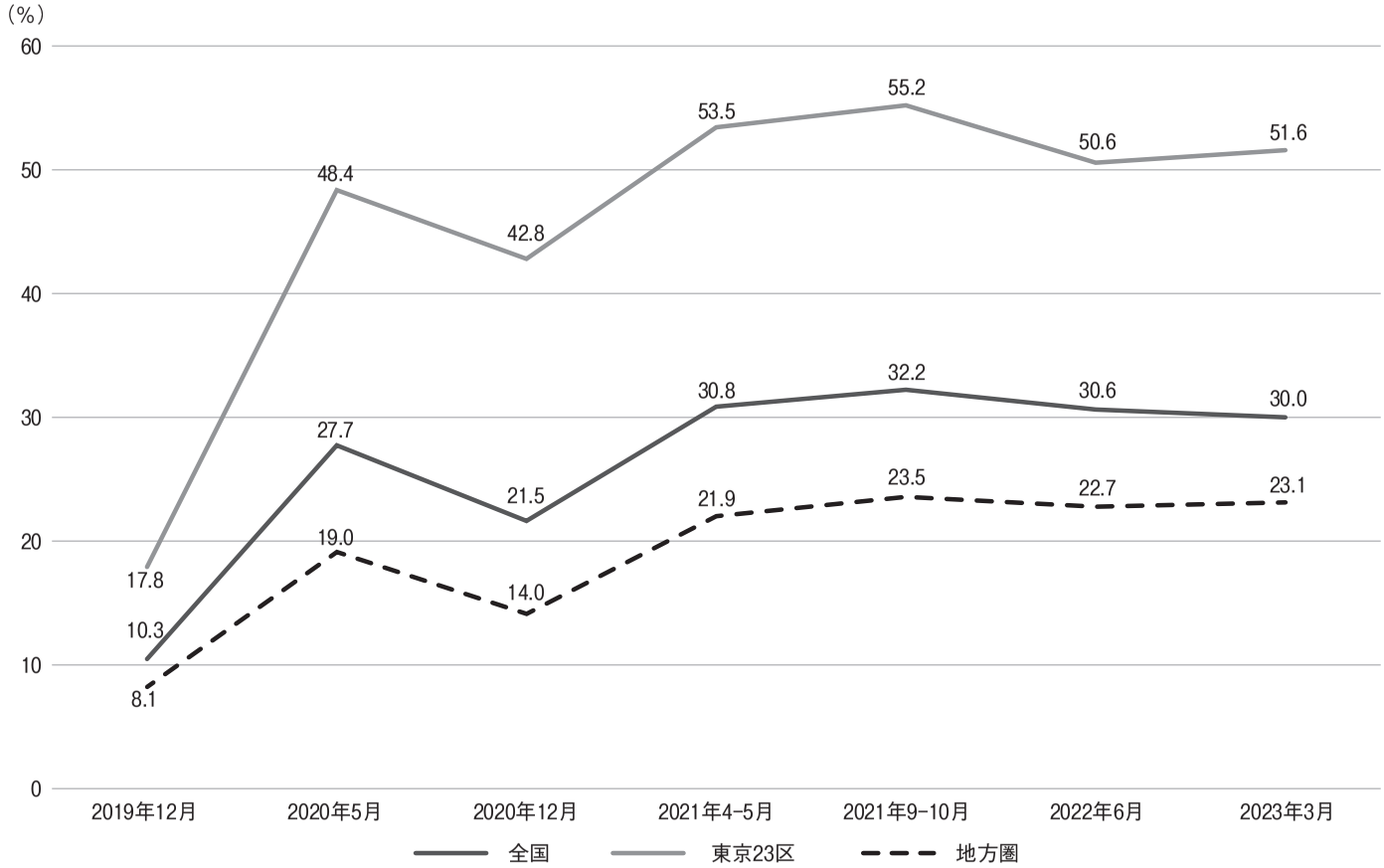
全　　国：三大都市圏，地方圏

＊図 2 ～ 10 は全国の結果です。

【出典】内閣府「第 6 回　新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」（2023 年）

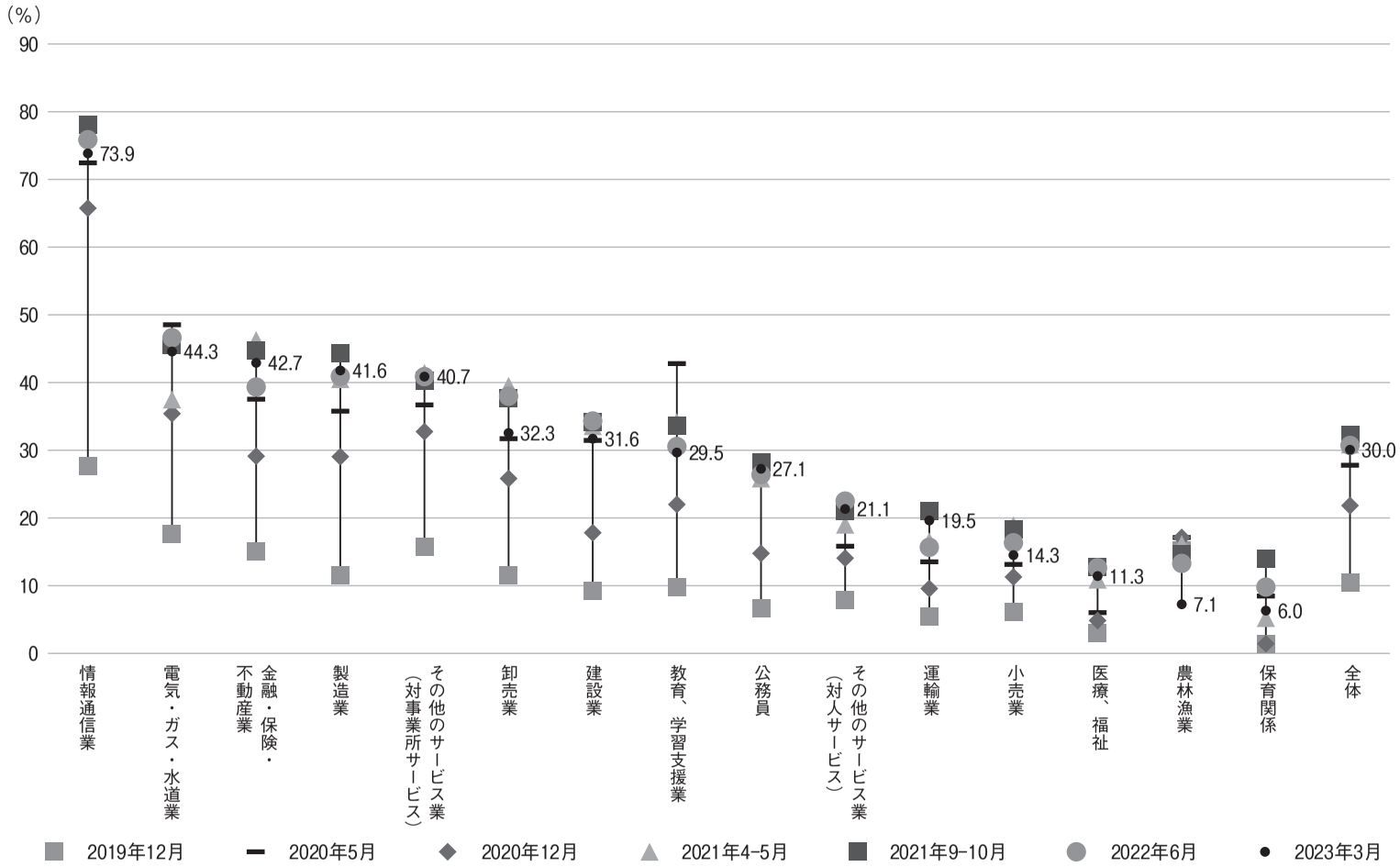
＊出題にあたり，元の図の一部を加工修正しています。

図１　地域別のテレワーク実施率※（就業者）



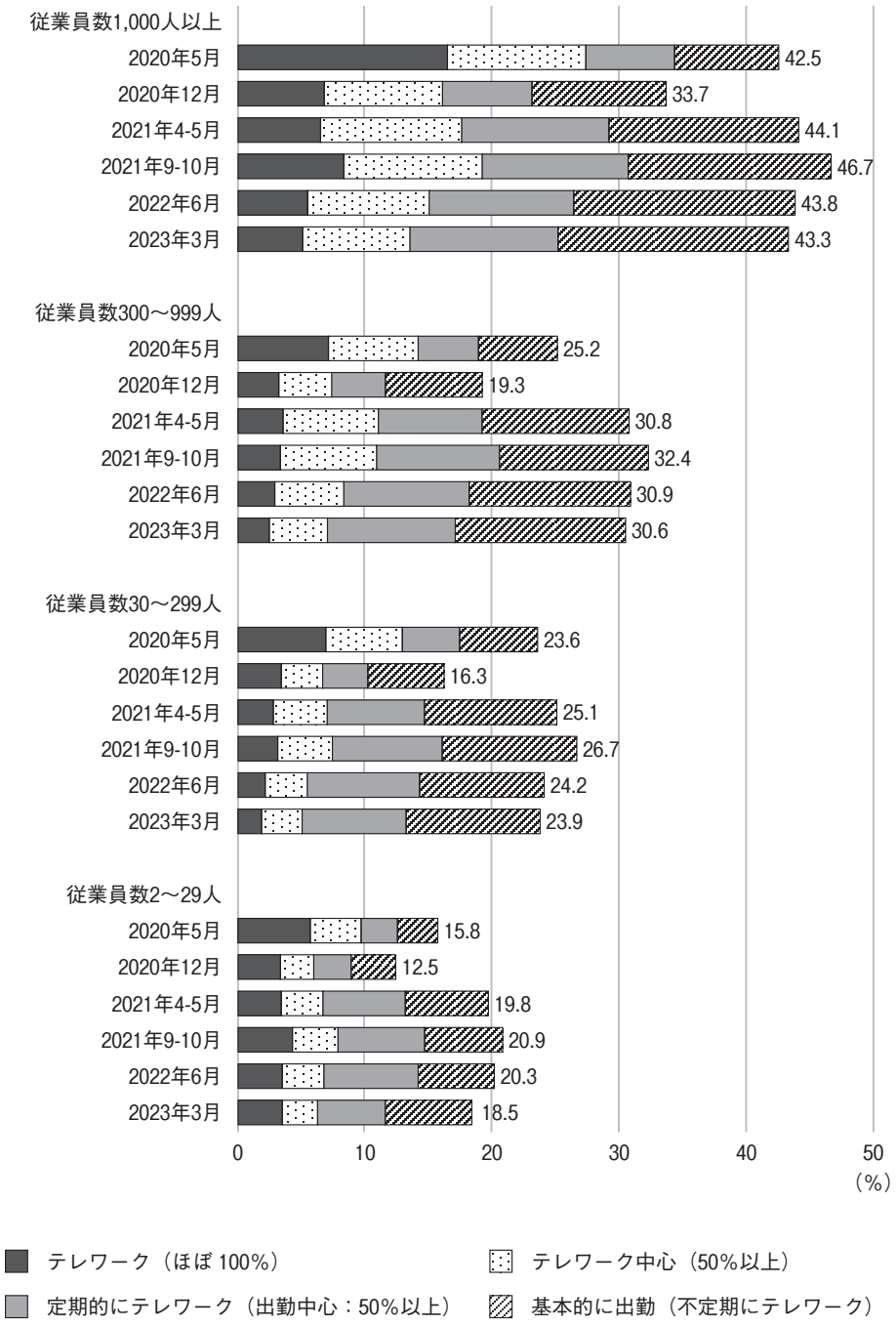
※働き方に関する問に対し，「テレワーク（ほぼ 100%）」，「テレワーク中心（50%以上）で定期的にテレワークを併用」，「出勤中心（50%以上）で定期的にテレワークを併用」，「基本的に出勤だが不定期にテレワークを利用」のいずれかに回答した人の割合

図２　業種別のテレワーク実施率（就業者）



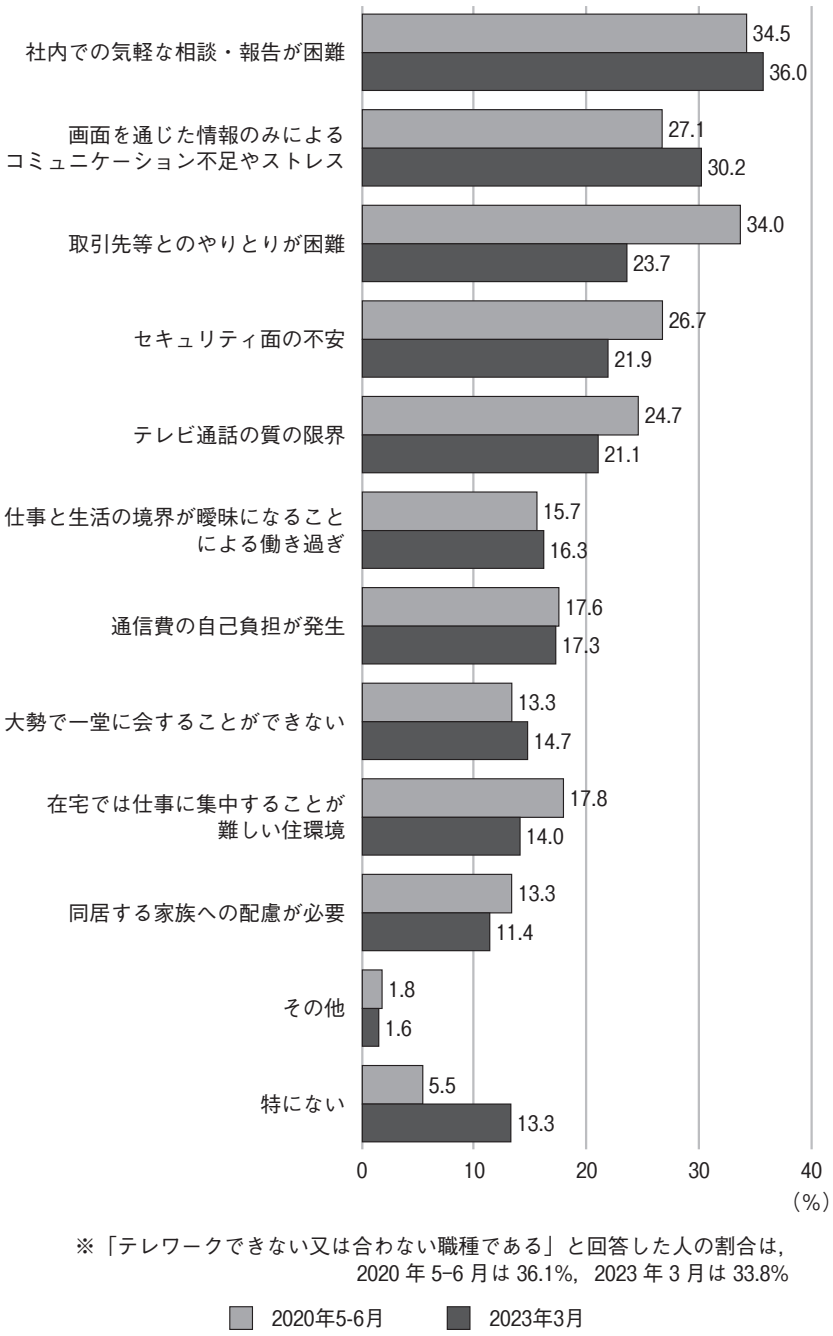
※図中のパーセントは2023年3月の値

図３　企業規模別テレワーク実施率（就業者）



※各横帯グラフの右側の数値について
例えば，一番上の 42.5 は，2020 年 5 月に行われた調査の時点で，従業員数 1,000 人以上の企業で就業していると回答した人のうち 42.5%がテレワークしていることを示している。

図4　テレワークで不便な点（就業者）



※「テレワークできない又は合わない職種である」と回答した人の割合は，
2020 年 5-6 月は 36.1%，2023 年 3 月は 33.8%

図５　ワークライフバランスの変化（就業者）

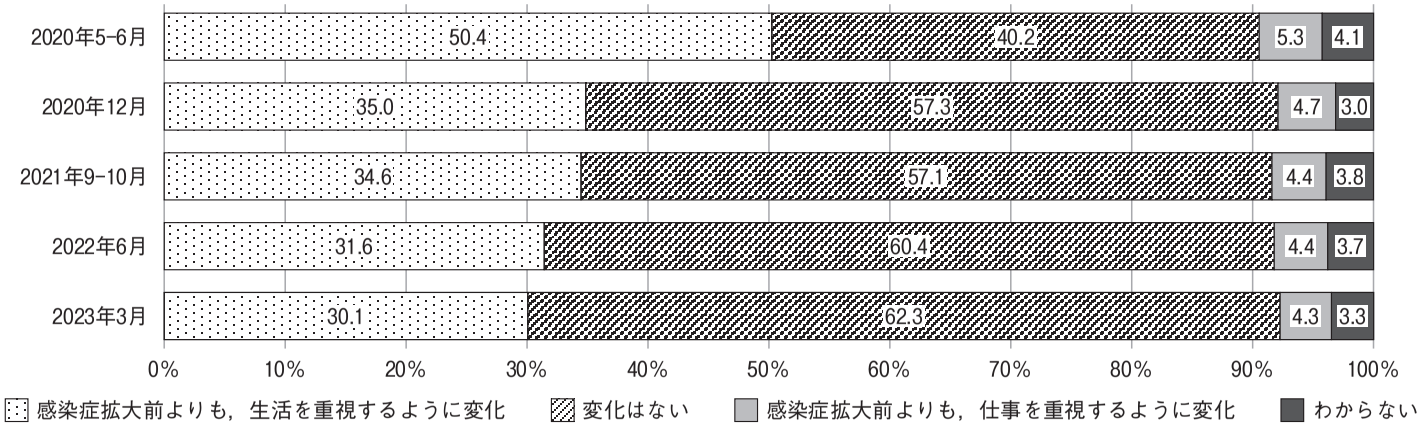


図６　労働時間の変化（就業者）※ 2019 年 12 月（感染症拡大前）からの変化を質問

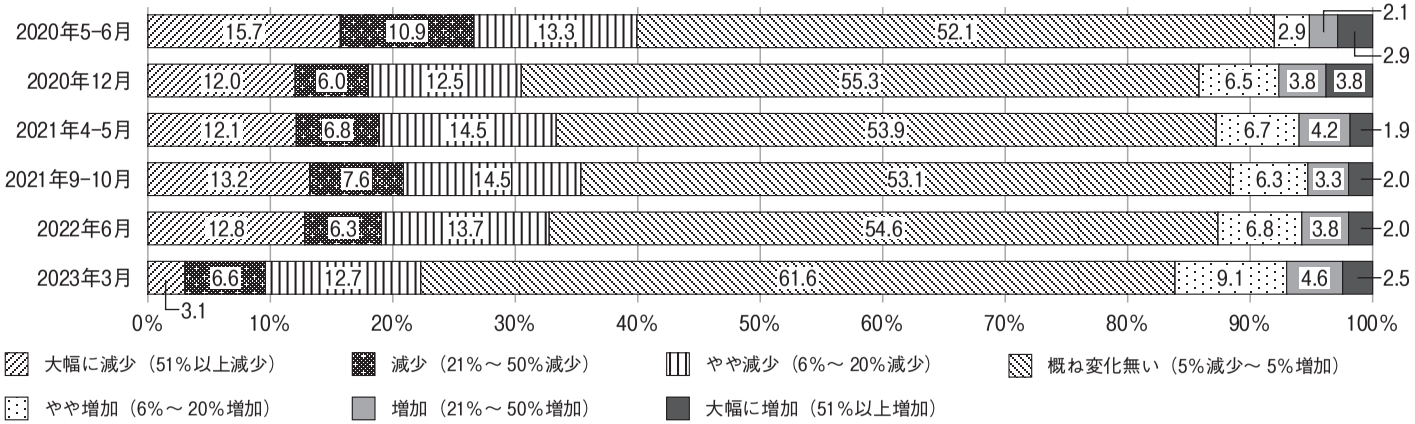


図７　生産性の変化（就業者）※ 2019 年 12 月（感染症拡大前）からの変化を質問

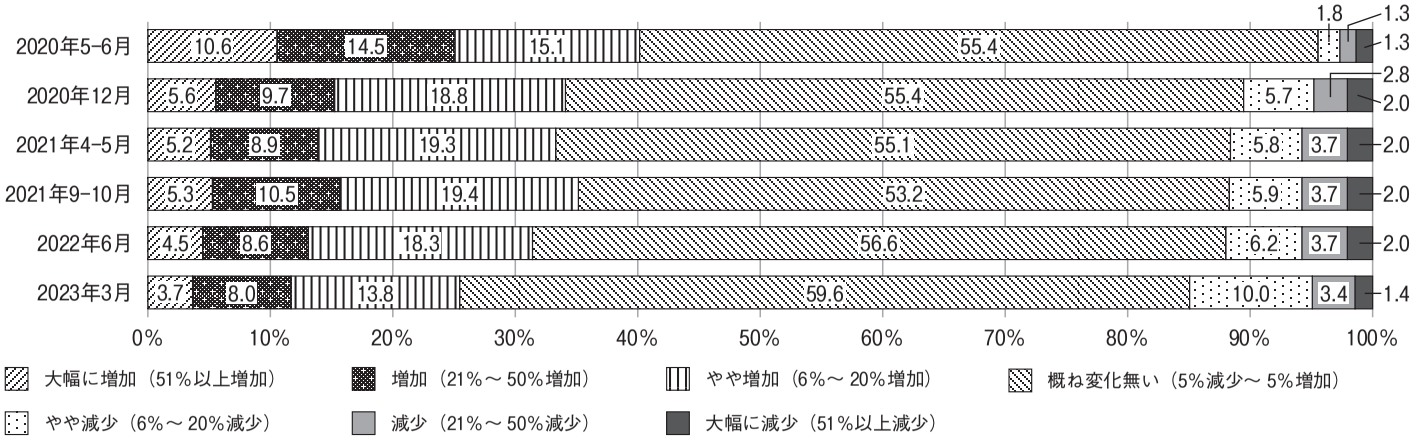


図8　働く上で重視するもの（就業者）

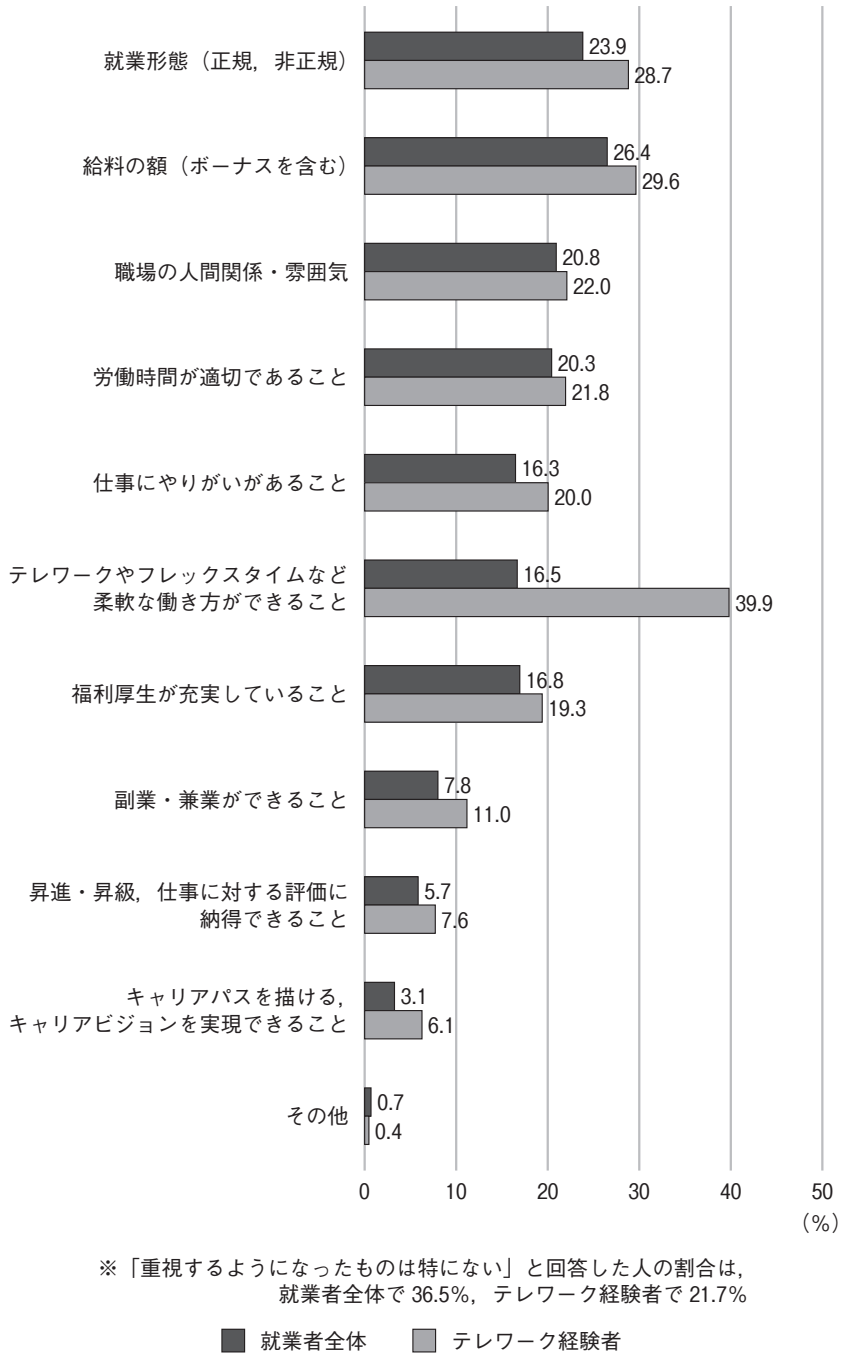


図９　家族と過ごす時間の変化（18 歳未満の子を持つ親）

※ 2019 年 12 月（感染症拡大前）からの変化を質問

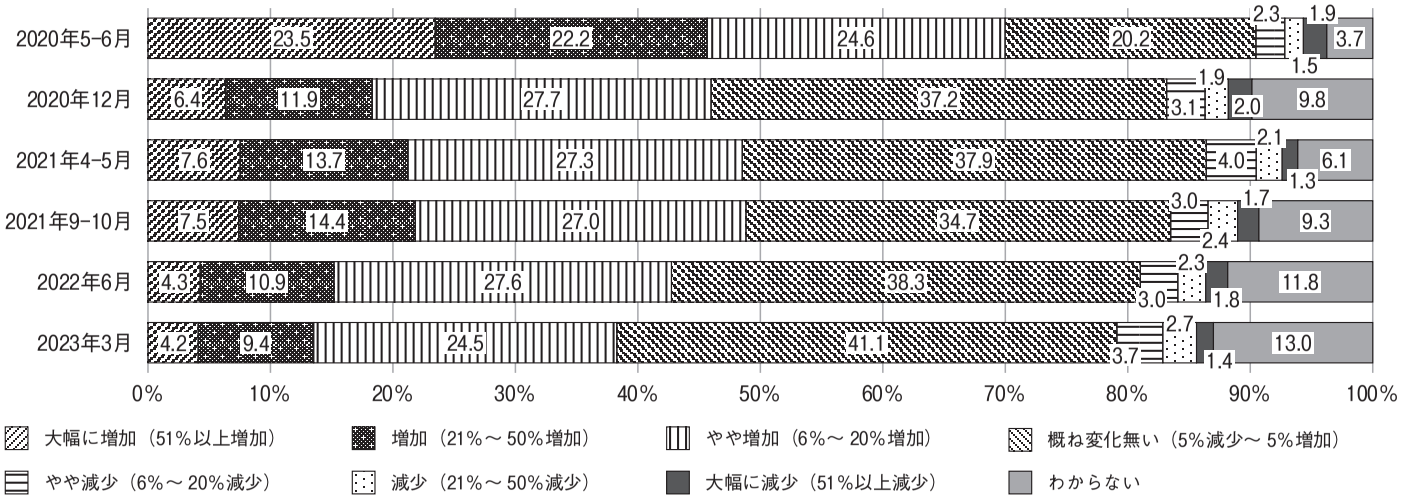
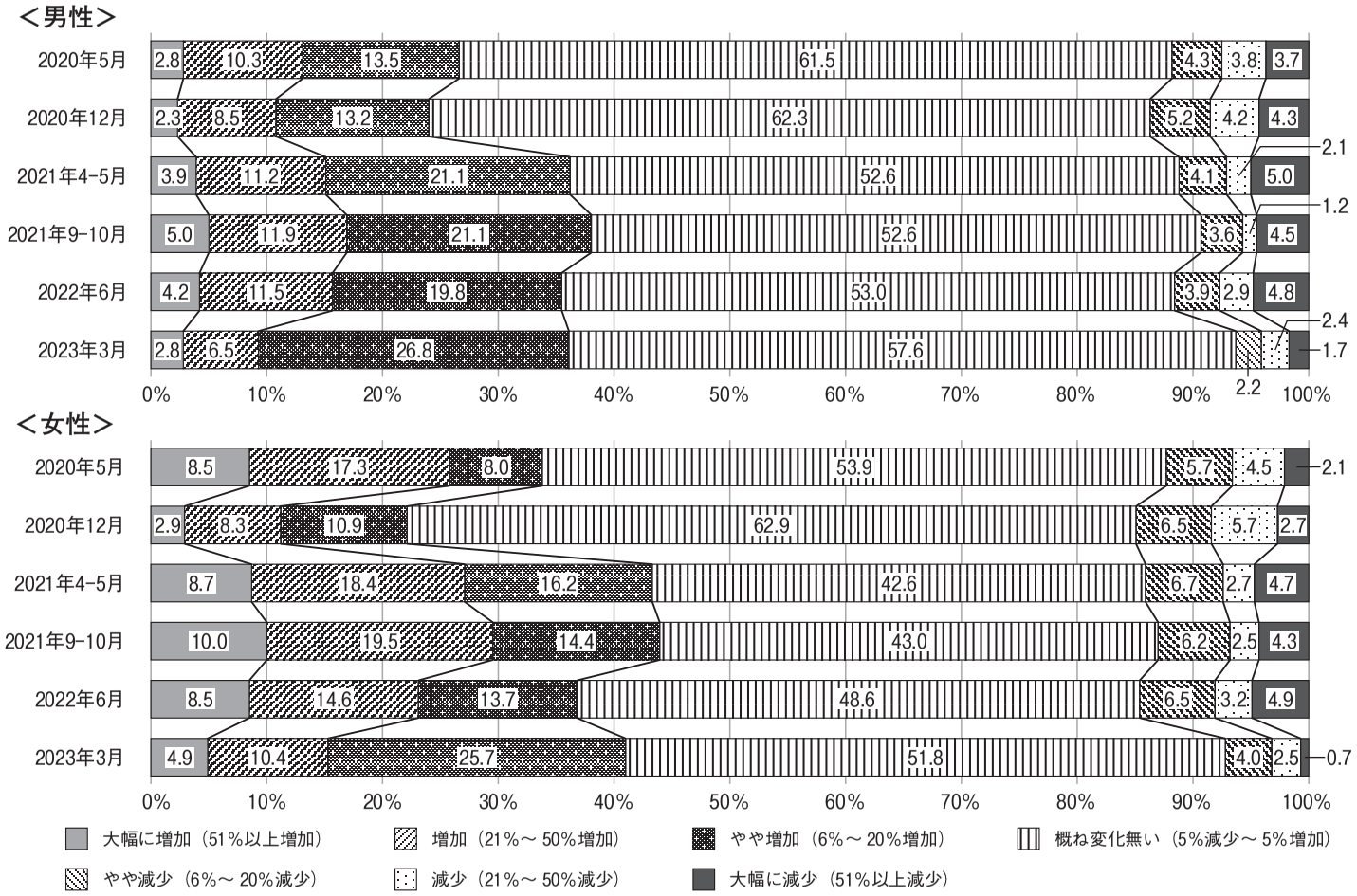


図10　家事・育児時間の変化（18 歳未満の子を持つ親）

※ 2019 年 12 月（感染症拡大前）からの変化を質問